

平成30年 第15回帯広市教育委員会会議録

1. 平成30年9月26日 水曜日 17時 ～ 18時
帯広市教育委員会会議を帯広市役所 教育委員会室に招集する。

2. 本日の出席委員

教 育 長	嶋 崎 隆 則
教 育 委 員	田 中 厚 一
教 育 委 員	藤 澤 郁 美
教 育 委 員	塩 野 谷 和 男

3. 本日の議事日程

- 日程第 1 会議録署名委員の指名について
- 日程第 2 報告第 19 号 帯広市教育支援委員会委員の委嘱について
- 日程第 3 その他 (1) 今後の事業予定について
その他 (2) 寄附受納について
その他
- 日程第 4 議案第 37 号 平成30年度帯広市文化賞及び文化奨励賞等の決定について【非公開】
- 日程第 5 議案第 38 号 平成30年度帯広市スポーツ賞及びスポーツ奨励賞の決定について【非公開】
- 日程第 6 報告第 20 号 平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について【非公開】
- 日程第 7 議案第 36 号 教職員の処分内申について【秘密会】

嶋崎教育長

ただいまから、平成30年第15回帯広市教育委員会会議を開会いたします。

佐々木委員より欠席の届け出を受けているため、出席委員は4名であります。

会議は成立しております。

ここで諸般の報告をいたします。

(佐藤企画総務課長 報告)

日程第1、会議録署名委員の指名を行います。

会議録署名委員は、藤澤委員及び塩野谷委員を指名いたします。

日程第2、報告第19号、帯広市教育支援委員会委員の委嘱についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

中野 部長

報告第19号、帯広市教育支援委員会委員の委嘱についてご説明いたします。議案書23ページをご覧ください。帯広市教育支援委員会につきましては、帯広市教育支援委員会設置規則第3条第1項の規定に基づき、医師、学識経験者、教育職員、児童福祉施設の職員、関係行政機関の職員、その他教育長が適当と認めた者のうちから、教育委員会が委嘱することになっておりますほか、同規則第2項の規定により、臨時の委員を委嘱することができることとなっております。この度、教育職員から委嘱されている委員に不足が生じる見込みとなりましたため、稲田小学校長からの追加推薦により、佐々木穂江氏を委嘱しましたほか、今後見込まれます、医師から委嘱している委員の欠席時の対応のため、代理として、北海道立緑ヶ丘病院の工藤大観氏外1名を臨時の委員として委嘱するものでございます。なお、委嘱期間につきましては、佐々木氏は平成30年9月12日から平成32年5月22日までとし、臨時の委員であります医師2名は、それぞれが担当する日1日限りとして委嘱するものでございます。報告は以上です。

嶋崎教育長
各 委員
嶋崎教育長

これから質疑に入ります。

ありません。

別になければ、質疑を終結し、本件を終了します。

日程第3、その他に入ります。

その他(1)今後の事業予定についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

山下調整監

学校教育部の10月の事業予定についてご説明いたします。議案書27ページでございます。学校教育指導室では、10月5日以降、5カ所の小中学校で公開研究会を予定してございます。教育研究所では、10月22日にJICAの課題別コースが開催されます。以上です。

森川調整監

続きまして、生涯学習部に関する主な事業予定についてご説明い

たします。議案書 28 ページ、生涯学習課では、帯広市民大学講座、大切なバトン＝看取りとはなど、7 講座をご覧の日程で予定しております。また、第 4 回帯広市社会教育委員会議を 10 月 24 日に市庁舎で予定しております。次に 29 ページ、文化課では、歴史や自然について学ぶ、ぶらり帯広・文化財めぐりを 10 月 14 日に市内で予定しております。30 ページ、図書館では、元北海道放送アナウンサーの安藤氏をお迎えして、語り手育成講習会を 10 月 12 日に予定しております。32 ページ、動物園では、動物たちにかぼちゃなどの特別メニューを給餌する、ハッピーハロウィーンを 10 月 28 日に予定しております。33 ページ、百年記念館では、収蔵美術作品展、美しき墨の世界を 10 月 27 日から 11 月 18 日まで予定しております。34 ページ、スポーツ振興室では、約 5 千人が参加する 2018 フードバレーとかちマラソンを 10 月 28 日に予定しております。最後に訂正でございます。平成 30 年度スポーツ賞スポーツ奨励賞贈呈式の時間につきましては、19 時の誤りでございます。お詫びしてご訂正をお願いいたします。以上です。

嶋崎教育長
各 委 員
嶋崎教育長

これから質疑に入ります。

ありません。

別になければ、質疑を終結し、本件を終了します。

その他（2）寄附受納についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

佐藤 課長

企画総務課の寄附についてご報告いたします。議案書 35 ページでございます。地域ぐるみでこどもを応援する活動の推進のため、こども学校応援地域基金に市外在住の方より計 3 件、9 万 1 千円のご寄附をいただいております。また、帯広ライオンズクラブ様より、小中学校の教育環境の一層の充実を図るため、扇風機及び巻き込み防止ネット 200 セット、200 万円相当を 8 月 14 日にご寄附いただきました。企画総務課からは以上でございます。

村田 課長

学校教育課よりご報告いたします。学校教育の振興のため奨学事業や教育の研究に役立てるためとして、市外在住者の方から、8 月 16 日に 2 万 5 千円のご寄附をいただいております。

中小原課長

生涯学習課からご報告いたします。とかちプラザ整備の推進及び利用者の利便向上の推進のため、市内居住者より座布団 10 枚、表千家同門会釧路支部様より、茶道具をご寄附いただいております。いずれもとかちプラザで活用させていただきます。

前原 館長

図書館よりご報告いたします。議案書 36 ページになります。帯広さくらライオンズクラブ様から、ブックトラック 3 台、20 万円相当を青少年の育成のため、児童室の充実に役立ててほしいとの趣旨でご寄附いただきました。当館への寄附は今回で 12 回目となります。

柚原 園長 動物園からご報告いたします。市外在住者の方から現金7件、総額14万2千円を動物展示施設等の整備及び動物購入のためとして、ご寄附いただいております。

河瀬 主幹 スポーツ振興室よりご報告いたします。市外在住者の方からスポーツ振興のためとして、8月13日に現金3万円のご寄附をいただいております。

嶋崎教育長
 藤澤 委員 これから質疑に入ります。
 図書館のブックトラック3台というのは、すべて同じものなのか、また、図書館から欲しいものの希望を聞いて寄附されたのか、その辺りについて教えてください。

前原 館長 帯広さくらライオンズクラブ様からは、以前にもいただいております。桜の絵を書いたもので、色違い3色ございまして、小さいサイズ2台、通常のサイズ1台を、いろいろご相談をしながら、ブックトラックということで決めさせていただきました。

藤澤 委員 ありがとうございます。
 嶋崎教育長 他になれば、質疑を終結し、本件を終了します。
 事務局から、その他説明事項はありますか。

事務局 ございません。
 嶋崎教育長 事務局からは、特にないようですが、各委員から他にご意見、ご質問等があれば、お受けいたします。

各 委 員 ありません。
 嶋崎教育長 別になれば、ここで、会議の進め方についてお諮りいたします。
 日程第4、第5及び第6の案件については、帯広市教育委員会会議規則第16条第1項第6号により非公開に、日程第7の案件については、帯広市教育委員会会議規則第16条第1項第2号により、秘密会にしたいと存じます。
 これにご異議ありませんか。

各 委 員 異議なし。
 嶋崎教育長 ご異議なしと認め、そのとおり取り扱いたします。
 これより、会議を非公開といたします。
 日程第4、議案第37号、平成30年度帯広市文化賞及び文化奨励賞等の決定についてを議題といたします。
 直ちに説明を求めます。

草森 部長 議案第37号、平成30年度帯広市文化賞及び文化奨励賞等の決定についてご説明いたします。議案書は1ページからになります。本案は平成30年度帯広市文化賞及び文化奨励賞等につきまして、帯広市文化賞文化奨励賞等規則第7条の規定に基づき、受賞者を決定しようとするものであります。帯広市文化賞及び文化奨励賞等につきましては、規則に基づきまして、受賞候補者の推薦受付をいたしました結果、4個人、2団体の推薦をいただきました。賞の選考

につきましては、規則により帯広市文化賞文化奨励賞等選考委員会に諮問し、答申を受けたものであります。選考の結果についてご説明します。文化賞につきましては、酒井奈々子様、1個人を受賞候補者に、文化奨励賞につきましては、該当なし、文化活動功労賞につきましては、山内欣子様、1個人を候補者とする答申をいただきました。次に候補者の紹介を簡単にご説明させていただきます。5ページをご覧くださいと思います。まず、文化賞受賞候補者の酒井奈々子様におかれましては、アイヌ伝統芸能の踊り手、歌い手としての技能、帯広カムイトウウポポ保存会の会長としてアイヌ文化を次代へ伝承する活動が高く評価され、本市のアイヌ文化の向上に大いに寄与されたと認め、文化賞受賞候補者としたものであります。次に6ページ、文化活動功労賞候補者の山内欣子様におかれましては、誰もが気軽に歌うことのできる場所づくりに努められ、声楽の裾野を広げる活動に取り組んでこられたほか、音楽を通じた福祉活動にも取り組まれていることが高く評価されたことから、本市の声楽の発展に寄与されたと認め、文化活動功労賞受賞候補者としたものであります。以上よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

嶋崎教育長
塩野谷委員

これから質疑に入ります。

参考までに質問したいと思います。推薦を受けられたのが4個人、2団体と説明がありましたが、毎年その位の人数なのでしょうか。あまり多くない感じがいたしました。

渡邊 課長

昨年より2件減ってはおりますが、長期的に見る中では、大体このような数字でございます。

塩野谷委員

3つ賞がありますけれど、各賞に対して、1個人、または1団体ということですか。2人、または2団体になることはあるのですか。

渡邊 課長

推薦いただく場合、文化関係は3賞ございますが、この賞に指定ではなく、選考委員会の中で勘案しながら、振り分けていくものでございます。結果として、1つの賞に複数、あるいは昨年は、該当なしという事例もございました。

塩野谷委員
田中 委員

ありがとうございます。

1点だけ質問したいと思います。今回、受賞候補になられた方々は、皆さん非常に立派な方々で納得できると思います。文化奨励賞と文化活動功労賞の違いの確認をさせていただいてもよろしいでしょうか。

渡邊 課長

7ページをご覧ください。文化奨励賞等規則の中に、第3条に奨励賞、第4条は功労賞について記載されてございます。奨励賞については、文化的技能が特に優秀とあり、特に技能に重きを置いております。また、功労賞につきましては、長年にわたりひたむきな努力ということで、技能ももちろんですけれども、社会貢献的、還元

的な部分を重視しながら設定しております。以上です。

田中 委員

ありがとうございます。

藤澤 委員

今回は個人お二人ということですが、団体もあるのですか。

渡邊 課長

たまたま今回は個人お二人ですが、昨年の帯広信金様のように、団体の事例もございます。

藤澤 委員

今回は団体の候補はなかったのでしょうか。

渡邊 課長

候補は2団体ございましたが、今回は選に漏れたということがございます。

藤澤 委員

ありがとうございます。

嶋崎教育長

他になれば、質疑を終結します。

お諮りいたします。

議案第37号、平成30年度帯広市文化賞及び文化奨励賞等の決定については、原案のとおり決定することに、ご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし。

嶋崎教育長

ご異議なしと認め、議案第37号は決定されました。

草森 部長

補足させていただきたいと思います。今後の日程につきましては、表彰式を11月3日の文化の日11時から、帯広市民文化ホール小ホールにおきまして執り行う予定でございます。改めてご案内をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

嶋崎教育長

日程第5、議案第38号、平成30年度帯広市スポーツ賞及びスポーツ奨励賞の決定についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

葛西 室長

議案第38号、平成30年度帯広市スポーツ賞及びスポーツ奨励賞の決定についてご説明いたします。議案書は9ページからでございます。本案は平成30年度帯広市スポーツ賞及びスポーツ奨励賞について、帯広市スポーツ賞スポーツ奨励賞規則第4条の規定に基づき、受賞者を決定しようとするものであります。帯広市スポーツ賞スポーツ奨励賞につきましては、推薦要領に基づきまして、受賞候補者の推薦受付をいたしました結果、スポーツ賞功労部門に、3個人、スポーツ奨励賞には、5個人、4団体の計12件の推薦をいただきました。賞の選考につきましては、規則により、帯広市スポーツ推進審議会に諮問し、答申を受けたものであります。選考の結果についてご説明します。スポーツ賞につきましては、功労部門として、森田 精一様、高松三郎様の2個人を、スポーツ奨励賞につきましては、個人の部として、小玉葵水様、蝦名愛梨様、丸山拓海様の3個人を、団体の部として、帯広市立帯広第一中学校男子バドミントン部、北海道帯広三条高等学校女子ハンドボール部、学校法人帯広大谷学園帯広大谷高等学校男子バドミントン部、十勝F Cの4団体を受賞候補者とする答申をいただきました。次に候補者の紹介をさせていただきます。15ページをご覧ください。まず、スポ

ーツ賞功労部門についてご説明いたします。スポーツ賞功労部門候補者の森田精一様は十勝バドミントン協会並びに帯広市体育連盟の要職を歴任され、組織大会運営のほか、選手の育成に精力的に取り組むなど、本市のスポーツの普及及び奨励に顕著な功績を挙げられたことを評価したものでございます。次に16ページをご覧ください。高松三郎様は帯広軟式野球連盟並びに帯広野球審判協会の要職を歴任され、地域の野球競技を支えてこられるなど、本市のスポーツの普及及び奨励に顕著な功績を挙げられたことを評価したものです。次に18ページをご覧ください。スポーツ奨励賞個人の部におきまして、小玉葵水様は、本年6月に札幌市で開催された第71回北海道高等学校陸上競技選手権大会、女子三段跳で優勝、蝦名愛梨様は、本年7月に江別市で開催された第71回北海道高等学校選手権水泳競技大会、女子800m自由形優勝、丸山拓海様は、本年8月に深川市で開催された第49回北海道中学校バドミントン大会、男子シングルスで優勝されたことを評価したものです。19ページ、スポーツ奨励賞団体の部では、帯広市立帯広第一中学校男子バドミントン部は第49回北海道中学校バドミントン大会優勝、北海道帯広三条高等学校女子ハンドボール部は第69回北海道高等学校ハンドボール選手権大会優勝、学校法人帯広大谷学園帯広大谷高等学校男子バドミントン部は第70回記念北海道高等学校バドミントン選手権大会優勝、20ページ、十勝FCは平成29年度第40回北海道サッカーリーグで優勝されたことを評価したものです。以上よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

嶋崎教育長
各 委 員
嶋崎教育長

これから質疑に入ります。

ありません。

別になければ質疑を終結します。

お諮りいたします。

議案第38号、平成30年度帯広市スポーツ賞及びスポーツ奨励賞の決定については、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

各 委 員
嶋崎教育長

異議なし。

ご異議なしと認め、議案第38号は決定されました。

日程第6、報告第20号、平成30年度全国学力・学習状況調査の結果についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

村松 部長

報告第20号、平成30年度全国学力・学習状況調査の結果につきまして、本日お配りいたしました、お手元の資料をもとに報告をさせていただきます。平成30年度の本調査につきましては、全国一斉の悉皆調査として、本年4月17日火曜日、市内小学校6年生1,277名と市内中学校3年生1,261名が参加をしております。なお、

今年度行われました理科につきましては、平成27年度以来3年ぶりの実施となっております。また、昨年度より国が公表する都道府県の平均正答率につきましては、都道府県の間で数値による単純な比較や序列化、過度な競争の助長を避けるため、整数値での公表となっております。本市においては、経年比較・分析をしながら学力向上方策を推進するため、国から提供されたデータを基に小数値を算出しておりますので、これまでと同様に地域の公教育の説明責任を果たすという観点から、小数値で公表したいと考えております。因みに北海道の他都市の状況であります。現時点で公式ホームページ等を見ますと、札幌市や函館市、北見市などは小数値で公表されており、小樽市や苫小牧市などは整数値で公表されております。3ページをご覧ください。今年度の本市の調査結果についてであります。平均正答率をもとに、学力の状況を大きく見ますと、小学校では、本市で算出したしました平均正答率を全国と比較しますと、国語と算数、理科の3教科5科目すべてにおいて、全国平均正答率を下回る結果となりましたが、昨年度と比較すると、すべての科目において、全国との差が縮まっております。中学校では、数学A以外のすべての科目において、全国平均正答率を上回る結果となりました。4ページには、全国と本市の平均正答率の差を5年間で比較したグラフを掲載しております。小学校におきましては、今年度は3教科5科目において、すべて右肩上がりとなり、全国との差が縮まる傾向が見られました。また、中学校におきましても、小学校と同様に、5科目すべてにおいて右肩上がりとなり、全国を上回る傾向が見られました。次に5ページから6ページにかけては、市内における平均正答率の散らばり具合をまとめております。まず、5ページの全国平均正答率を上回っている学校につきましては、昨年度と比較して、小学校ではすべての科目で学校数が増加しております。中学校においては、理科を除いて学校数が増加しております。また、下段の平均正答率が最も高かった学校と最も低かった学校の差については、小学校では昨年度と比較すると、理科を除く、国語A、国語B、算数A、算数Bにおいて差が広がっております。中学校では昨年度と比較すると、3教科5科目すべてにおいて差が縮まっております。6ページの全道の平均正答率を5ポイント以上下回った学校は、小学校では理科を除き、昨年度より1～3校増加しており、中学校では理科で1校増加し、数学Bで1校減少となっております。このことから、小学校においては、2極化の傾向が見られると分析しているところです。7ページから9ページのグラフは、小学校における各教科・科目の正答数の分布を表しております。一番右端が満点を表しております。全国と比較しますと、本市では全国平均正答数の少ない層と同じ範囲に含まれる児童の割合が昨年度

と比較すると減少傾向が見られております。また、8ページの算数Aにおいては、全国の正答数の少ない層と同じ範囲に含まれる児童の割合が同程度となり、9ページの理科においては、全国と比較して低いなど、正答数の少ない層の改善の傾向が見られました。今年度も3教科5科目において、全問正解など正答数の多い児童の割合が低くなっております。今後も正答数の多い児童に対して、ミスなどをしないように、しっかりと習熟させる時間の確保など、指導方法の工夫に努めてまいります。10ページから12ページのグラフは中学校の状況です。概ね全国と同じような状況になっており、3教科5科目すべてにおいて、全国の正答数の少ない層と同じ範囲に含まれる生徒の割合は、全国と比較して低いなど改善の傾向が見られました。13ページからは、各教科の平均正答率を領域ごとに分析し、レーダーチャートで全国と比較できるように、お示ししております。赤が本市、黒が全国となります。学力の状況が点数だけではなく、視覚的に幅広く捉えることができるようにレーダーチャートを掲載しております。見方としましては、赤い四角の線で囲っている項目は、成果が見られる項目、青い四角の点線で囲っている項目は、特徴的な項目や課題となっている項目でございます。小学校国語Aにおいては、特に短答式の問題形式で全国の平均正答率を大きく下回っていることが、このグラフから伺えます。次に19ページからは、児童生徒の質問紙による学習状況の概観について、5年間の推移をグラフで表したものです。算数及び数学、理科の勉強が好きな児童生徒の割合は、小中学校ともに昨年度よりも減少しており、全国的にも減少傾向にあります。その原因につきましては、昨年度に引き続き、分析しているところですが、改善方策等を学校と協議していきたいと考えております。また、20ページの④のグラフでは、普段1日当たり1時間以上勉強する児童生徒の割合は、昨年度と比較すると改善の傾向にあります。さらに新学習指導要領を見据えた主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組で、⑥のグラフ、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思っている児童生徒の割合は、昨年度の同等の設問と比較すると増加しており、授業改善が着実に進んでいるものと考えております。また、学校の学力向上の取組状況の概観をお示した③のグラフにおいては、小中学校ともに、学習規律の指導の徹底を、「よく行った」と回答する学校の割合が、全国平均を大幅に上回るなど改善の傾向が見られております。詳細については、今後さらに分析してまいります。昨年度に引き続き、指導主事の学校教育指導訪問や本市の学力向上推進プロジェクトチームによる授業改善の取組などを通じて、引き続き、基本的な学びの約束などを全市的に浸透させていきたいと考

えております。このような学力に関する調査は、北海道の調査を含めて今回が12回目となります。こうした客観的なデータをもとに、学校における指導方法の工夫・改善、PTAと連携した家庭学習の充実等に努め、継続的に学力向上の取組を進めていきたいと考えております。今後、市長・副市長への説明の後、市議会所管委員会があります、建設文教委員の皆様にご報告させていただいた後、ホームページ等で公表してまいります。また、北海道教育委員会によります市町村別の結果公表につきましても、これまで同様に同意しておりますことを申し添えます。報告は以上でございます。

嶋崎教育長
塩野谷委員

これから質疑に入ります。

傾向としてお伺いしたいのですけれども、正答率の低い生徒は、他の教科も含めて全体的に低いのか、教科によってばらついているのか、正答率の高い人は他の教科も全体的に良いのか、どうでしょうか。

村松 部長

帯広市全体の分析の中では、個々人の追跡という形では行っていないのが現状ですが、各学校でも同様な形での分析を行っております。40人程度の中での下位10人から5人の層については、学校個々の細かな分析はされておりますので、子ども一人一人の特質についての把握は各学校でなされていると思います。この後、学校訪問などで、その部分についても確認をしていきますが、一人一人の子どもが確実に力をつけていける指導を進めていけるように、学校と協議してまいりたいと考えております。

塩野谷委員

わかりました。もう1つよろしいですか。中学校の数学A、Bでは、数学Bの問題の方がやさしいということですか。理想は平均が真ん中くらいだと一番比較しやすいのかと思うのですが、数学AとBでは偏っている感じがするのですが、どうでしょうか。

村松 部長

ご指摘があったように、グラフでは正規分布の形で偏差値50が真ん中で、正規の山ができるのが理想だと思います。今回、国で作成しているA問題は基礎的な問題、B問題は応用的な問題となっております。基礎的な問題について、平均の山が右に若干ずれているということは正答数が多い、基本的な問題数が多いと想定できます。B問題は思考力を問う問題ですので、国語も算数も同じように平らな山型になる傾向にあります。来年度からは英語の対応や新しい学習指導要領の対応も含めて、今、分かれているAとBが1つの形になるという情報も入っておりますので、若干傾向は変わってくると思いますけれども、一人一人の学力については、なるべく下の層を上へ上げて基礎的な力を付けていくという趣旨については変わらないでいきたいと考えております。

塩野谷委員

わかりました。正規分布を基本的に考えると比較しやすいと思って質問させていただきました。ありがとうございます。

藤澤 委員

調査の対象は小学校6学年、中学校3学年ということで、今、中学校3年生が6年生の時の結果を合わせて見ることができるということで、単年ごと各教科の比較を詳しく分析することも良いと思うのですが、その点についてはどうでしょうか。

村松 部長

今、ご指摘のあった部分については、まさに小学校から中学校への子どもたちの学びのつながりという点では非常に大切なところで、今回の報告書の中には、5年生の時という文言は入っておりませんが、私どもも分析をさせていただきました。今回、全国平均以上の成績となった中学校3年生が小学校6年生の時のデータについては、全国から2ポイントから3ポイント下の結果でございました。そのことから考えると、その子どもたちが義務教育を終える時には全国と同等、それ以上の学力を身に付けて卒業する形になります。その原因を含めて、今、分析をし、学校とも協議しているところです。今後も小学校と中学校のつながりという点では非常に大事な点ですので、しっかりと分析を進めていきたいと考えております。

藤澤 委員

ありがとうございます。

田中 委員

今、説明を伺っていて、全体的に非常に良い成績だという理解をしました。過去になかったような素晴らしい成績だと思います。ただ、敢えてお伺いしたいのは、19ページの算数、数学の勉強が好きな児童生徒の割合について、小学校では、平成29年度は63.4%、平成30年度は59.4%、中学校では、平成29年度は60.8%、平成30年度は57.3%に下がっています。主観ですけれども40%くらいの子どもたちは、あまり好きではないという感じを持ちました。それなのに前回より成績は良かったというのは、どう捉えたらいいのかと思いました。中学校は受験があるから、一生懸命に勉強した結果とも捉えられるし、感覚の問題ですから、好きかきらいで言えば、きらいという子どもたちの価値観があるのかもしれない。中学生に数学を好きになれと言っても厳しいところがあるでしょうけれど、特に小学生の場合は、もう少し好きであってほしいと思いました。授業改善等も含めて、好きだから良いとか、面白い授業が良いというわけではありませんが、小学校ではどのようにお考えでしょうか。

村松 部長

ご指摘のあった点につきましては、私どもが学校訪問の際に話題になる1つであります。全国的にも若干右下がりになっています。大学の先生方によりますと、理数離れは将来的な部分で日本企業の理数の弱さと兼ね合わせているのではないかとご指摘される方もおります。小学校の校長先生の率直なお話では、楽しい授業だから学力が上がるわけではない。子どもたちが自分の意見を言う場面であるとか、正しいか間違っているかは別として、考えていることを友だちの前で発表する授業が大切だということです。今回の調査では、

比較的AとBの問題はしっかりと練習していなければ解けないような問題であるとか、テストの中の質問紙での子どもたちの心理状況は、単純に好き、きらいには表れないのかもしれませんが。私たちが聞くと子どもたちは好きと言うことも結構あり、こういう調査では下がってくることもあり、これが決定的な原因ということはないのですが、今回、小学校の下がり激しかった割には全国平均にかなり近づいているという矛盾について、この後、2次訪問で授業を中心にしながら、先生方と話す機会がありますので、もう少し協議し、分析したいと考えているところです。

田中 委員
塩野谷委員

ありがとうございます。

今回特に中学校は全国を上回った非常に良い成績でしたが、この要因についてお聞きしたいと思います。児童生徒の学習状況の概観のところに、家で、自分で計画を立てて勉強する児童生徒の割合が増えた。1日当たり1時間以上読書する児童生徒が増えたとあります。児童生徒の努力によるものなのか、学校の指導が良かったのか、なぜ良かったのか教えていただきたいと思います。

村松 部長

今回ここに出させていただいたものは第1次報告としてお示ししております。年明けに分析も含めて最終報告をしたいと考えておりますが、中学校の要因としては、1つは授業改善がしっかりなされているという点があります。小学校の段階の平均正答率から中学校で全国を上回り、子どもたちがしっかりと確実な学力をつけている点で、習熟度の程度に応じて小グループに分かれた習熟度別指導が算数、数学では定着してきています。そうすると下位層の子どもたちが若干上がってくることも原因かもしれません。また、家庭の意識として、家庭学習と学校の授業の両輪であるという働きかけが功を奏し、家庭学習にかける時間が増えたり、子どもたちへの励ましの言葉が増えたり、保護者や本人たちの努力があったものと分析しておりますが、そのような視点についても、最終報告の中でお示ししたいと考えております。

塩野谷委員
嶋崎教育長

ありがとうございます。

他になれば、質疑を終結し、本件を終了します。

これより、会議を秘密会といたします。

(以下 非公開)

嶋崎教育長

以上で本日の日程はすべて終わりました。

これをもちまして、平成30年第15回帯広市教育委員会会議を閉会いたします。